

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「江刺第一中学校（奥州市）」《家庭学習の充実》
 - 2 【 家庭学習 】 平成 22 年度全国学力テストに思う（その 1）
 - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 4 【 みんなの声 】 ペっこ言い隊
 - 5 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

1 【 実践事例 】 「江刺第一中学校（奥州市）」《家庭学習の充実》

「各家庭の生活スタイルの多様化」や「部活動・スポ少と家庭生活の兼ね合い」を課題と考える江刺第一中学校では、教科の「家庭学習の手引き」を掲載した学校オリジナルの生活記録「school life」を使い、自学チェックによって家庭学習への本人の取組意識を高めるとともに、「まなびフェスト」において保護者が取り組む視点を明確にしています。

事例は⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_esasil.pdf

2 【 読書活動 】 平成 22 年度全国学力テストに思う（その 1）

7 月 31 日、今年度の全国学力テストの結果が新聞紙上を賑わしました。架空の新聞が報じた「太宰治生誕 100 年」の記事やコラムを読んで、自分の感想を具体的に記述する問題の正答率が 52.6%であり、単に「すごいと思った」などと記すだけで、内容を読み取り、自分の気持ちや感想を交えて表現できない中学 3 年生がおよそ半数いるという結果に愕然としました。

また、夏目漱石の「吾輩は猫である」の中の「羊の御厄介になったり、蚕のお世話になったり・・・」という一節を読んで、人間のどのような行為を表現したものかを答える問題で、「衣服を着ること」と答えられたのは 37.5%でした。

これらの問題で問われているのは、太宰治や夏目漱石を読んだことがあるかどうか・・・ということではありません。自分の思いを言葉で表現する力、そして表現の豊かさを持っているかということです。

それは、授業で学ぶというよりも、日常生活の中でどれだけ言葉に親しんでいるかということが問われているように思います。どれだけ本に親しんでいるか、多様な言葉を駆使した豊かな表現を日常としているかということではないでしょうか。一朝一夕で解決することではなく、時間をかけて取り組む必要があると思います。

3 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

- (教ちゃん) 最近、悲しいニュースばかりで胸が痛いわ。罪のない子どもたちが何で亡くならなければいけないの？お年寄りが亡くなったまま、何でいつまでもそのままにされているの？
- (振ちゃん) 本当にね。今年上半期に警察が摘発した児童虐待の件数が統計を取り始めた2000年以降最多の181件だとか、100歳以上のお年寄りの所在不明者が57人（読売新聞調査）もいるとか・・・。まわりの人や地域の力で、防ぐことはできなかったのかなあ？
- (教ちゃん) 読売新聞の全国世論調査によると、「家族の絆やまとまりが弱くなってきている」と思う人は81%に達し、「地域住民の支え合いが、弱くなってきている」と思う人が78%にもなっているの。それに、「困った時に相談にのってもらえる人が地域にいる」と答えたのは、61%だったのよ。家族や地域のつながりを見直さないよ！
- (振ちゃん) 教育振興運動に取り組んでいる岩手県は、大丈夫だよ。地域のつながりで、困っている人や弱い立場の人を支えていく基盤が地域にできているもの。僕は、そう信じているよ。
-

4 【みんなの声】ぺっこ言い隊

- (1) 第25号（7月27日）の家庭学習の記事は、非常に秀逸でした。学校は家庭学習に立ち入らない傾向があるので、「家庭学習の手引き」について先生と保護者が話し合うとか、宿題を月曜日に一括して提示し、金曜日の終わりの会で確認するなどという提案は、とても素晴らしいです。

これらは決して過激な提案ではなく、「いわて型コミュニティ・スクール構想」に合致した考え方だと思いました。学校と家庭・地域の連携、協働のもと、授業と家庭学習の連動に向けて、こうした取組が進められればいいなと思います。

さて、我が家の子どもたちも夏休みに入りました。宿題で悪戦苦闘するのは例年のことですが、今年は子どもたちと相談し、「苦手教科の克服」を夏休みのテーマに設定しました。

嫌いな教科の宿題は、どうしても「回答欄を埋める」作業となりがちなので、他の教科よりも時間をかけて問題を読み、必ず「調べる」ことを取り入れることにしたようです。

まだスタートしたばかりなので、とりあえず机の上には歴史の年表やら地図帳が「散乱」していますが、果たしてその結果は・・・。お盆の時期に大騒ぎしないことを祈るのみです。（H町 Cさん）

- (2) 私も、第25号の記事で、勉強時間の保証について、強く感じたことがあるのでメールします。息子が卒業した中学でも部活が盛んで、特にテニス部はほぼ全員がスポーツ少年団に入り、地域の指導者の方々に指導

していただきました。

学校での部活後、市営のコートで週に 1～2 回「スポ少」があり、試合前になると週 3 回～4 回になり、帰宅すると食事して寝るだけの生活になりがちでした。

もちろんそんな生活の中でも勉強時間を見つけ、やりくりしなければならないことはわかりますが、仮に大人でも大変なそのような生活の中で、これから自分で生活のリズムを作っていくことを覚える中学生に、それを強いるのは酷と思いました。

熱心な親は、定期試験の前日にもスポ少の定期練習日を入れる方もあり、テストを気にしながらも練習に出る子もいました。

でも、顧問の先生は、冬期間の部活の前にみんなで勉強する時間を設け、わからないところを教えてください、大変感謝しています。勉強だけでなく、生活リズムも教えてくださいましたのだと思います。(M 市 F さん)

4 【編集後記】あつしのひとりごと

第 25 号の「家庭学習の提示」や「学習時間の確保」についての反響を、多くいただいております。「ぺっこ言いたい」にもご意見を寄せていただきましたが、とてもうれしく思います。

多くの皆様の意見を交流させながら、「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」の大きなうねりを作っていければと思っています。5 者の取組による教育振興運動です。それぞれの立場で“思うこと”を意見交換させていきましょう。メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。意見・感想はコチラ ⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第 27 号は、8 月 24 日（火）配信です。

★平成 21 年度配信のバックナンバー（第 1～17 号）はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成 21 年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～